

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	イロイロ市貧困地区における裁縫事業と教育支援
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 L00B JAPAN
(3) 実施期間	2017年5月1日～2018年1月31日
(4) 実施国	フィリピン
(5) 活動地域	西ビサヤ地方イロイロ市
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>西ビサヤ地方に属するパナイ島のイロイロ市は、人口 447,992 人（2015 年）で労働者の 8 割がサービス産業に従事する高度都市化地域である。近年、イロイロ市では、空港から市内に続く幹線道路の拡張工事が進んだことに伴い、住居を持たず路上生活をしてきた先住民族は、イロイロ市ハロ地区郊外のラニット村というバランガイ（行政最小単位）に移転されることになった。2016 年暮れ時点で、先住民 30 世帯（約 180 人）がこの再定住に転居させられた。</p> <p>先住民らは学歴が低く、都市では路上生活または資源ごみを回収するなどして日銭を稼ぐ者が多かったが、再定住区は都心から遠く、職業技術を持たない彼らは現在も職がないままである。この再定住区のコミュニティでは児童の 4 人に 1 人がドロップアウトという状態であるため、L00B では同地区の公立学校と連携し、住民の収入補助と児童の奨学金の仕組みを作ることとなった。</p> <p>具体的には、◎成人への裁縫による生計支援（母親 10 名） ◎子どもへの教育支援（7 歳から 15 歳まで約 10 名）という二本立てプログラムを実施する。</p> <p>この事業は L00B が 2009 年からごみ山があるカラフナン村で行ってきた事業をモデルとして踏襲するものである。</p>

②活動の目標：

カラフナン村で裁縫事業と教育支援が一定の成果を挙げたことを受け、次の段階として先住民族の再定住地区で事業を拡大していく。カラフナン村の裁縫メンバー（母親や女性）が技術を伝え、さらに高校生ジュニアリーダーが貧困から脱出しつつあるモデルとして、最貧困層の住民をエンパワーしていきたい。

「裁縫支援」では、カラフナン村の裁縫メンバーがラニット村の女性に対してジュースパックや洗剤パックなど、廃材を利用した裁縫を教える。このトレーニングでは縫製技術だけでなく、貧困から脱出するために必要な労働観（Work Ethic）、組織運営管理、商品のマーケティング手法などを伝授し、先住民が自ら取り組みを進めていくことを目指す。

「教育支援」では、学業の継続が困難な子ども（1世帯に1名）を対象に奨学金を支給するほか、奨学金の対象外となった世帯の児童も含めて、野外活動と栄養食配給活動を行うことで地域全体の子どもの成長に寄与する。

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容 (*マークがある活動は写真あり)

【実施内容① 裁縫支援】

- 2017年5月1日 カラフナン村の既存の裁縫メンバーからトレーナーを選出
- 2017年5月6日 ラニット村の先住民のご家庭訪問(オリエンテーション&調査)
- 2017年5月7日 小学校、先住民グループと三者覚書締結 *1
- 2017年6月16~17日 6月23日~24日 第1回キャパシティビルディング
(17名参加) *2
- 2017年8月末まで 作業場&ミシン設置
- 2017年10月17~20日 第2回キャパシティビルディング (17名参加) *3
- 2017年11月 先住民グループの裁縫プロジェクト始動
- 2017年11月 製品のデザイン・試作・販売開始

【実施内容② 教育支援】

- 2017年5月7日 奨学候補生インタビュー、奨学生(10名)選考
- 2017年5月14~16日 森のキッズキャンプ (2村キッズ40名+スタッフ5名)
*4
- 2017年6月奨学金の配給
- 2017年6月17日 週末の英語活動(カラフナン村)
- 2017年6月24日 週末の英語活動(ラニット村)
- 2017年7月22日 週末の英語活動(ラニット村)
- 2017年8月5日 週末の英語活動(ラニット村)
- 2017年9月23日 週末の英語活動(カラフナン村)
- 2017年10月15日 週末の英語活動(カラフナン村)
- 2017年10月17日 先住民の子ども達30人対象の学校栄養給食スタート(60日間) *5
- 2017年11月4日 週末の英語活動(ラニット村)
- 2017年11月18日 ユースイニシアティブ合同野外活動 *6
- 2017年12月2日 週末の英語活動(ラニット村)
- 2017年12月16日 合同クリスマスパーティ(2村キッズ70名+スタッフ10名)

(2) 実施成果：

先住民コミュニティでの「裁縫支援」のメインは、6月と10月に2回に分けて実施したキャパシティビルディングトレーニングである。募集対象となる女性25名のうち17名が参加した。ほとんどの女性が高校を卒業しておらず、家庭内での内職経験のみで外部での就労経験を持たない。このトレーニングの第1回では縫製技術を教える前に、個人の能力発見やグループとしてのチームビルディングの意味を理解することに力を置いた。講師はL00Bのユースボランティア出身層から選出し、当事者として貧困から脱出するために必要な労働観（Work Ethic）、組織運営管理、商品のマーケティング手法などを分かりやすく参加者に伝授した。

また第2回目のトレーニングでは、カラフナン村ごみ処理場にある裁縫メンバーを裁縫のトレーナーに選出し、古紙や廃材を使った小物作りから始まり、最後にはジュースパック製品の裁縫行程を体験し、完成品を制作するまで達成した。

これまで、L00Bから支援を受けてきた側の被受益者が、別の貧困地域に入って仕事の経験や技術を伝授することで、双方のコミュニティへの効果的なエンパワーメントになった。

トレーニング終了後は先住民が自ら製品を作り直したり改善したりして、小規模ではあるが外部に販売するまでに至ってる。

一方、「教育支援」のメインの活動は子ども達の就学支援（10名）およびキッズキャンプや野外活動（40名参加）の開催、さらに10月から計60日間におよぶ栄養給食の実施である。

就学支援は先住民コミュニティの15歳以下の子ども33名の中から10名の奨学生を選出し、1年間の就学をサポートした。また5月にはパナイ島山岳地帯のキャンプ場にてカラフナン村の子ども達とラニット村の子ども達40名を招待してリーダーシップキャンプを行った。ごみ処分場と先住民再定住区という異なる二つの都市貧困状況にある子ども達は、大自然の中で交流・協力しながら共同生活を行った。

また10月からは先住民の子ども達が通う小学校にて30人を対象に60日間の栄養給食を行った。栄養給食の調理および配膳はL00Bスタッフと教師と保護者が担当し、栄養レクチャーは日本とフィリピンのユースボランティアが担当した。60日だったためBMIの改善までは測れなかったものの、毎日のレクチャーの成果で、栄養バランスについての知識を身に付けることができた。

全体としての成果は、2つのコミュニティを巻き込んで支援活動を行ったことで、異なる環境の都市貧困生活者の間の交流や相互協力を進めることができた。

(3) 得られた教訓など：

団体にとって、先住民族への本格的な支援はこれが初めてだった。過去数十年間、路上生活を送ってきて世帯が多く、新しい再定住区に引っ越してきてようやく5~6年たったばかりである。住環境が路上から再定住区となり、ようやく物乞いに頼らない生活のサイクルを模索しはじめたところである。まだ定職に就いている親はおらず、ほとんどが日雇いの不安定な仕事で生計を立てている。このような状況で、親は子どもの衛生状況や就学状況に関心を向けないことも多い。例えば、雨が降ったら子ども達は学校を休みがちであり、食事の前の手洗いやマナーもなかなかすぐには浸透しなかった。

貧困状況の中では家族が栄養を取ることが最優先であり、衛生面や就学はまだまだ先の優先順位となる。このような人々に対しスタッフは毎日の給食活動や週末の野外活動を通じて、大人、子どもの両方に根気よく声掛けしていった。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

実施期間の終了後は、独自の資金で教育支援は同じ規模・頻度で続行する予定である。また、裁縫支援はジュースパック製品だけでなく、先住民が先祖から受け継いでいるツルのバッグ制作などアイテムを増やし、マーケティングの可能性を広げていく予定だ。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

1年間の活動を通じて、先住民族のリーダー夫婦が先住民族の誇りと共同体の再生に情熱をかけて取り組んでいることを肌で感じる事ができた。彼らはパナイ島に離散し、社会の最貧困層に置かれている同胞を再定住区に呼び戻し、キリスト教の教義の下、教育と仕事を通じて良き市民となることを目指している。リーダーは50代ながら大学に通い、現在ソーシャルワーカーを目指している志の高い人物である。

また、このようなリーダー夫婦との親睦もあり、L00Bスタッフとボランティアがラニット村に住み込むなど、コミュニケーションを丁寧に行う事ができた。これによって、さらなる信頼関係を築き、今後さらに支援活動を効率化できると考えている。

(2) 活動の写真

(1. 先住民コミュニティ、小学校、L00B との三者覚書)



(1. 週末の野外活動に関わる日本人ボランティア)



(2. 第1回キャパシティビルディングの活動の様子)



(2. 第1回キャパシティビルディング集合写真)



(3. 第2回キャパシティビルディング裁縫)



(3. 第2回キャパシティビルディング集合写真)



(4. 森のキッズキャンプ出発前の集合写真)



(4. 森のキッズキャンプ地で食事の準備)



(5. 小学校栄養給食のオリエンテーション)



(5. 小学校栄養給食で手洗いレクチャー)



(6. ユースイニシアティブ：リーダー合同野外活動)



(6. ユースイニシアティブ：リーダー合同野外活動)



以上